

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

山口県山陽小野田市

3 地域再生計画の区域

山口県山陽小野田市の全域

4 地域再生計画の目標

本市においては、人口ビジョンにおいて示すように昭和 60 年(1985 年)の 70,259 人をピークに人口は減少に転じ、その後も自然減の増大（（平成 12 年(2000 年)78 人→平成 30 年(2018 年)378 人）と社会減（平成 30 年(2018 年)77 人）により人口減少が進行しており、これに伴う地域経済の縮小やまちの活力低下も懸念されます。

少子高齢化の進展により出生数が減少し、死亡者数が増加する中で、自然減の改善を図るには出生率を向上させることが必要となります。

社会減については、転入と転出との差を総数で見ると比較的少ないと言えるものの、高校卒業時に就業や進学で市外に転出する傾向が強いことから、この改善を図るには若い世代の流出を食い止めること、一度転出した若者を呼び戻すことや東京圏等から子育て世代を呼び込むことといった新しい「ひと」の流れをつくる必要があります。

これらの現状・課題に対応するために、『人口流出に歯止めをかけ、「社会減の流れ」を変える』、『若い世代の結婚・子育て等の希望をかなえ、「少子化の流れ」を変える』、『山陽小野田市の強みや特性を生かし、「住み良いまち」をつくる』という視点のもと、学びの基礎となる幼児・義務教育の充実、IT化や国際化に対応し地域と一体となった教育の展開、生涯学習の機会と創造の場づくり、健康づくりや生きがいづくりといった「ひとづくり」に重点を置いた施策を継承・発展

させていきます。また、本市の大きな資源である山口東京理科大学の公立化及び薬学部の設置を契機に、グローバルな思考ができる地域のキーパーソンとなる人材の育成や定着、同大学の研究機能と知的資源を活用して産学官連携を更に推進することで新技術の開発促進・新製品や新産業の創出による地域産業の活性化等を図ります。これら「ひとづくり」をテーマに、多様な地域の資源を活用し、現在及び将来にわたって市民が“住み続けたいと思えるまち”の実現に向けた取組を展開していきます、人口減少の抑制を目指します。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げます。

- ・基本目標 1 定住に結び付く就業環境を整え“安定した”雇用をつくる
- ・基本目標 2 「学びの力」や観光資源等を活かした“魅力”により新しい人の流れをつくる
- ・基本目標 3 結婚・出産・子育ての希望を実現し“まちへの愛着”をつくる
- ・基本目標 4 持続可能で元気な“住み良い”地域社会をつくる

【数値目標】

5-2 の①に 掲げる 事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2025年度)	達成に寄与する地方版総合戦略の基本目標	
				第1期 (2021年度まで)	第2期 (2022年度から)
ア	有効求人倍率(宇部公共職業安定所管内)	1.15 倍	1.50 倍	基本目標 1	基本目標 1
	若者(25～34 歳)の就職率(国勢調査)※	76.1%	78.0%	基本目標 1	—
イ	山口東京理科大学生の市内就職率※	4.5%	10.0%	基本目標 2	—
	観光客数※	977,051 人/年	1,150,000 人/年	基本目標 2	—
	20～39 歳の社会動態数(住民基本台帳)※	△65 人/年	0 人/年	基本目標 2	—
	18～39 歳の社会動態数(住民基本台帳)	△301 人/年	0 人/年	—	基本目標 2
ウ	期間合計特殊出生率	1.53	1.50	基本目標 3	基本目標 3
	婚姻率(山口県統計分析課)※	4.52‰	4.80‰	基本目標 3	—
	子ども(6 歳未満)の人数(住民基本台帳)※	3,089 人	3,089 人	基本目標 3	—

エ	本市に住みたいと思う市民の割合（アンケート調査結果）	73.40%	80.00%	基本目標 4	基本目標 4
---	----------------------------	--------	--------	--------	--------

※2021 年度までに実施した事業の効果検証に活用

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進事業

ア 定住に結び付く就業環境を整え“安定した”雇用をつくる事業

イ 「学びの力」や観光資源等を活かした“魅力”により新しい人の流れをつくる事業

ウ 結婚・出産・子育ての希望を実現し“まちへの愛着”をつくる事業

エ 持続可能で元気な“住み良い”地域社会をつくる事業

② 事業の内容

ア 定住に結び付く就業環境を整え“安定した”雇用をつくる事業

本市が培ってきた工業都市としての歴史や技術とともに、人的資源や自然資源など様々な地域資源の活用や、企業進出、地域産業の振興等による雇用の創出を通じて、定住に結びつく就業環境を整えます。

【具体的な取組】

- ・ 企業誘致活動の推進（工場設置奨励条例に基づく奨励措置の充実）
- ・ 創業支援の推進（創業支援制度の導入・推進）
- ・ 新規就農・就業者定着の推進（就農者支援制度の導入・推進）等

イ 「学びの力」や観光資源等を活かした“魅力”により新しい人の流れをつくる事業

山口東京理科大学の立地を活かした、市内の小・中・高・大による「包

括教育連携」の取組や、ICT技術の活用などを通じた学びの充実、また、地域の資源を本市の魅力として市の内外にPRし、まちの価値向上により移住・定住に繋がる人の流れをつくります。

【具体的な取組】

- ・ 山口東京理科大学生の定住支援（住まいる奨励金の交付による定住促進）
- ・ 地域観光資源を活用した交流人口の増大（公共施設における観光機能の充実） 等

ウ 結婚・出産・子育ての希望を実現し“まちへの愛着”をつくる事業

若い世代が希望をもって市内に住み、結婚から出産、子育てまで、安心して暮らしていくことができるよう総合的な支援を行うとともに、子育て環境や教育環境の良さを生かして定住意欲の向上を図り、まちへの愛着を醸成していきます。

【具体的な取組】

- ・ 子育て世帯への支援（子育てに関する総合的な窓口の設置・運営）
- ・ 教育環境の変化に対応した小中学校施設・整備の推進 等

エ 持続可能で元気な“住み良い”地域社会をつくる事業

本市が取り組んできた住みよさづくりと、地域コミュニティの活力やまとまりの良さを、今まで以上に向上していくとともに、デジタル技術の活用等を通じて、安心して暮らしていくための生活環境の向上を図り、将来にわたって持続可能な、にぎわいと活力ある支え合いの地域社会を構築します。

【具体的な取組】

- ・ 地域コミュニティの活性化（地域の自主的・主体的な活動の支援）
- ・ スマイルエイジングに向けた取組の推進（心身の健康に対する意識づくりの醸成及び啓発） 等

※ なお、詳細は第2期山陽小野田市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

600,000 千円（2020 年度～2025 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年度 8 月に外部有識者等により構成される「山陽小野田市地方創生協議会」による効果検証を行い、翌年度以降の取組の推進に関して意見を伺います。検証後速やかに本市ホームページ上で公表します。

⑥ 事業実施期間

2020 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2020 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで